

私たち農林中央金庫の仕事は、
ある日突然、世界を大きく変えるようなものではない。

なぜなら私たちが向き合う農林水産業とは、
自然を相手にし、一朝一夕に変化や成果を生み出すものではないから。
モノをつくるのではなく、「いのち」を生み、育て、繋いでいくものだから。

だからこそ私たちは、世界の金融市場で安定した利益をあげるという挑戦を続け、
規模の大小を問わず、地域と農林水産業を守る人々に尽くす金融機関として生きてきた。
そうして、100年の歴史を重ねてきた。

しかしこれからは、それだけでは十分とはいえない。
農林水産業が、時代の変化をとらえ発展し続ける産業になるためには、
私たちは、これまで以上の役割を果たさなければならない。

金融の知見を活かしながら、いままでの機能や範囲を超えた新たな貢献へ。
現場の課題の解決に、身をもって真摯に挑んでいく。
生産者はもちろん加工や流通、そして消費者と向き合い、その声に応えていく。

農林水産業から生まれる「いのち」は、
その先に連なるたくさんの「いのち」の営みに繋がっている。

いまこそ、私たち一人ひとりが、持てるすべてを発揮する時。
未来へと受け継がれるこの「いのち」の連鎖を、
より豊かで確かなものにするために。

持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

農林中央金庫

ごあいさつ

みなさまには、平素より当金庫の業務に関し、多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、このたびの令和6年能登半島地震により被害を受けられた方々に対して、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、支援や復旧・復興にあたられている方々のご尽力に対して、深く敬意を表します。

このたび、当金庫の概要や2023年度の業務実績等をご説明したディスクロージャー誌を発行しましたので、ぜひご一読ください。

気候変動や世界的な人口増加、国際情勢の緊迫化等により、食料・エネルギー等の価格が高騰し、国際社会において食料安全保障リスクへの対応が共通の重要課題になっています。また、穀物や肥料・飼料などを輸入に依存している日本においては、生産資材価格が高止まりする一方、販売価格へのコストの転嫁が進まない等、農業経営に深刻な影響を及ぼ

しています。当金庫としては、JAバンク、JFマリンバンク、JForestグループとともに、協同組合ならではの役割・機能を発揮しながら、最大限のサポートに取り組むとともに、みなさまから安心・信頼される金融機関・組織を目指しながら、農林水産業・農山漁村の振興へ貢献してまいります。

当金庫の重要な役割の一つは、会員のみなさまへの安定的な収益還元です。足元は、会員のみなさまのご理解をいただきながら、中長期的な収益力を強化すべく取り組んでいるところです。この役割をこれからも果たし、ステークホルダーのみなさまからの信頼を得られるよう最大限の努力をしまいる所存です。

最後になりますが、JAバンク、JFマリンバンク、JForestグループおよび当金庫を、これまで以上にお引き立て賜りますよう、お願い申し上げます。

2024年7月



農林中央金庫
経営管理委員会会長

山野 徹

農林中央金庫
代表理事理事長

奥 和登